

---

**報 告**

---

## 第32回 日本臨床環境医学会学術集会を終えて

網 中 雅 仁

第32回日本臨床環境医学会学術集会 会長

令和6年6月8、9日、岡山県倉敷において第32回日本臨床環境医学会学術集会を無事に開催することができました。今回のメインテーマは『食と栄養から環境医学を考える』とし、様々な視点から環境医学にアプローチするプログラムを組ませていただきました。

メインテーマにちなみ、地域医療や健康増進活動における食の問題提起、生化学的視点から捉えたアレルギー問題など、とても有意義な学術集会になったものと感じております。

日本臨床環境医学会学術集会が岡山の地で開催されるのは今回で2度目であり、前回は第18回学術集会を川崎医科大学 大槻剛巳先生を会長に岡山市で開催されました。今回の学術集会は山陽本線新倉敷駅にある、くらしき作陽大学倉敷キャンパスにて対面方式により現地開催とさせて頂きました。くらしき作陽大学は、新幹線停車駅の新倉敷駅より徒歩12分、山陽道の玉島I.C.から5分程に位置し、建築家 吉村順三氏が手掛けた自然に恵まれたキャンパスでございます。当日は天候に恵まれず雨模様となりましたが、構内を流れる川に落ちる雨音からも初夏の始まりを感じて頂ければ幸いであつたかと思っております。

2日間の学術集会では、のべ97名の参加者にお越しいただきました。また、近隣にある良寛荘での懇親会には50名を超える先生方にご参加を頂くことができました。





プログラムとしては、特別講演1題、教育講演2題、ランチョンセミナー1題、シンポジウム6題、一般演題36題の講演及び発表をいただき、大変盛況な学術集会となりました。

特別講演では、一般財団法人 機能水研究振興財団 理事長 堀田国元先生にご講演をお願いして「ワンヘルスAMR対策と機能水のポテンシャル」をお願い致しました。この特別講演は、無料市民公開講座および本学の特別講義として開催させて頂きました。本学の学生をはじめ、市民の方々の参加もあり、大盛況の特別講演となりました。

教育講演(1)では、くらしき作陽大学教授 木村吉伸先生に「植物糖タンパク質の構造特性と生物活性」について講演をお願いしました。植物糖鎖が持つ特異的な免疫活性に関するお話等のご教示を頂きました。教育講演(2)では、新庄村国民健康保険内科診療所の大槻剛巳先生から「小さな村の診療所日誌」と題して、川崎医科大学時代の研究から現在の地域医療に関する現状についてご紹介頂くことができました。

第1日目は、テルモ株式会社の提供によるランチョンセミナーを開催しました。子のランチョンセミナーでは東海大学教授、ルイ・バストゥール医学研究所 佐藤勉先生による「口腔の健康と機能水：高純度次亜塩素酸水を中心に」と題したセミナーをご提供頂きました。日本臨床医学会において機能水の有用性を分かり易くご教示くださいました。

今回の学術集会では、環境アレルギー分科会のご提供による分科会シンポジウム「環境中微粒子の健康影響-CREST研究に学ぶ」と題して、最先端の研究者にお集まりいただき、シンポジウムを開催いたしました。環境アレルギー分科会代表 東京女子医科大学 平久美子先生にシンポジウムの趣旨をお話し頂き、シンポジストとして京都大学教授、京都先端科学大学の高野裕久先生による「環境中微粒子の体内、細胞内動態、生体・免疫応答機序の解明と外因的、内因的健康影響決定要因、分子の同定」、慶応義塾大学 奥田知明先生による「環境化学と毒性学の共同研究を加速させる新規なエアロゾル粒子採取技術—サイクロンと水溶性フィルター」、新潟大学 三上剛和先生による「新規3次元解析法を用いた環境中微粒子曝露モデルマウス肺の検討」、京都大学 石川良賀先生による「環境中微粒子成分の肺内局在と生体・免疫応答の同視野観察法の構築」、兵庫医科大学 黒田悦史先生による「微粒子の化学的特性と肺胞マクロファージの活性化 ～炎症を引き起こす微粒子と引き起こさない微粒子～」、京都府立医科大学 濱口真英先生による「マイクロプラスチック経口曝露と腸内環境・代謝障害」について研究成果をご紹介して頂きました。

学術集会では、これら以外に一般演題として口頭発表、ポスター発表により貴重な研究成果を公表して頂いた。会長賞は一般演題より、研究内容が今回のメインテーマとの相互性が高く貴重な研究成果であったことから、湘南鎌倉総合病院免疫・アレルギーセンター 渡井健太郎先生の「アレルギー疾患と甘味菓子類摂取頻度の関係」に授与致しました。また、奨励賞には機能水研究の今後の展開を期待し、東海大学医学部医学科基礎医学系生体構造学領域 清島大資先生に授与致しました。

授与された先生方の研究が、今後益々ご発展することを祈念いたしております。

今年の懇親会は、学会場より少し離れた高台にある「良寛荘」での開催となりました。新型コロナウイルスもひと段落し、多くの参加者の先生方にも楽しんで頂けるようにとの思いもあり、水島の工場夜景や

御料理、本学音楽学部学生有志のサクソフォンアンサンブルによる演奏など、趣向をこらせて頂きました。倉敷の地の思い出の一つになれば幸甚に存じます。

2日間の会期ではありましたが、無事に第32回日本臨床環境医学会学術集会を終えることができました。これもひとえに理事の先生方や遠路倉敷までお越し頂いた参加者の皆様、そして学術集会の運営に直接携わって頂いた実行委員の先生方、学生の方々のお力添えによるものでございます。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後になりましたが、本学術集会の実行委員長をお引き受け頂いていた小倉喜一郎先生が、2024年4月14日に急逝されました。小倉先生には学術集会の骨格を企画して頂いていただけに、ご参加が叶わず大変残念なことでございました。小倉先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。